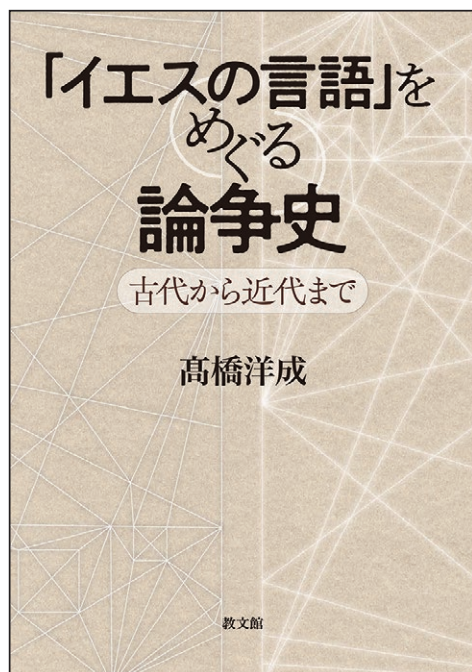


「イエスの言語」をめぐる論争史

古代から近代まで

高橋洋成 著



「ヘブライ語」や「アラム語」が指し示すものは何か？

「イエス時代のユダヤ人の言語」には古代から多様な呼称が冠されてきた。しかし同じ呼称であっても、想定される言語実体は必ずしも共通ではない。本書では、聖書をはじめ諸文書の分析を通してそれらの呼称の由来を探り、研究者たちの言語観の相違を丁寧に読み解いて、近代までの研究史を跡付ける。気鋭のセム語学者による論考！

《著者紹介》高橋洋成（たかはし・よな）… 1978年生まれ。2002年東京大学文学部言語文化学科卒業。2007～11年イスラエル・テルアビブ大学大学院留学。2012年筑波大学大学院人文社会科学研究所博士課程単位取得退学。2013～18年日本聖書協会新翻訳事業において翻訳者（旧約担当）・編集委員（五書・歴史書担当）。2023年同志社大学より博士（神学）取得。現在、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ特任研究員、上智大学神学部非常勤講師。著書に『ここが変わった！「聖書協会共同訳」旧約編』（共著）、『ユダヤ教とキリスト教』（共著）など。

A5判・上製・336頁・定価 7,040円（本体 6,400円+税）・ISBN 978-4-7642-7493-8 C3016